

令和6年度第1回部活動地域移行検討委員会 議事録（要旨）

日時 令和6年7月18日（木）
午後3時～午後4時45分
場所 豊明市役所 2階ホール

出席者：早川委員長、伊藤副委員長、森委員、佐藤委員、円城寺委員、井戸委員、
小・中学校PTA代表委員（3名）

事務局：浅井教育部長、秋永学校教育課長、相羽生涯学習課長、山田学校支援室室長、
奥平学校支援室室長、青木生涯学習課課長補佐、本田学校支援室室長補佐、
生涯学習課職員（荒川）

「教育部長あいさつ」

日頃は市教育委員会また小中学校の運営等に多大なご協力をいただきましてありがとうございます。休日部活動の地域移行には不透明な部分が多く、全国的な流れとは言え、フォーマットがあるわけでもなく各自治体の対応が非常に大切になってきます。本日の検討委員会では保護者、学校、教育委員会、スポーツ関係者のそれぞれの想いや考えをこの場で共有し、最終的な結論へ導くための一端となるようにしていきたい。活発な意見交換をお願いいたします。

1. 議題

(1) 令和6年度豊明市部活動地域移行検討委員会設置要綱（案）について

〔資料1〕令和6年度豊明市部活動地域移行検討委員会設置要綱（案）について事務局（生涯学習課長）が説明を行う。）

要綱案については資料のとおりとなりますが、この委員会は部活動の地域移行に関し、それぞれの地域の状況を踏まえ課題を洗い出し、どのように解決していくのかという事を議論していく場としていきます。また、検討委員会に関しては意思決定機関というよりも皆さまの意見を反映させていく場とさせていただきたいと思えます。

●委員からの意見や質問

特になし。→異議なしのため、要綱案は承認。

(2) これまでの検討委員会の振り返り

- ・令和5年度は書面会議を含め、計4回の検討委員会を開催しました。
- ・第1回は部活動の地域移行を進めていく背景や小中学校の部活動の現状と課題について議論を行い、第2回は生徒と教職員向けに行った部活動についてのアンケート結果についての報告を行いました。第3回は、中学校休日部活動の目指す姿とモデル事業についての説明を行いました。第4回については書面での会議開催となっており、委員の皆さまの意見を集約し、小学校の部活動の方向性を作成しました。保護者の方々にも書面にて方向性をお伝えしました。

●委員からの意見や質問

委員) 部活動の地域移行について、本来の目的がまだ理解できていない部分があるので説明して欲しい。また、この取組みを行うことで良くなることは何なのか、誰が幸せになるのかもお聞かせください。

事務局) 少子化などの社会情勢変化や、教員が専門的な知識や経験が無い種目の部活動顧問をしているといった現状がある。地域移行することで専門的な知識や経験を持った指導員の指導を受けられることや、教員の多忙化の解消にもつながるのではないかと考えております。

委員) ・全国大会等を目指して部活動に取り組む考えと、身体を動かす経験や楽しむことを重視した大きく分けて2つの考えがあると思いますが、どちらの考え方の方向性に進んでいくのか、もう少し明確に子どもたちに伝えていくことが出来たらと思います。

・部活動を指導する人材がないという問題に関しては、例えば近くの愛教大などの体育学科などに派遣依頼をしてみてもどうか。

・全てを地域に移行するのではなく、例えば部活に特化した教員の採用を考えるなど、豊明独自の取組みがあっても良いのではないかと。

事務局) ・部活動について大きく分けて2つの考え方があることに関しては認識している。より高度な専門性を求めるのであれば、例えば地域にあるスポーツクラブといったコンテンツを利用していくことを勧めていくことも良いのではないかと認識であることから、体を動かすことを楽しむといった考えに近い方向性で考えています。

・人材確保という点では近くの大学などへの声掛けなどはしていきたいと思っております。

・例えばハンドボールに関してもそうですが、現状の部活動に無い種目を追加していくことに関しても考えていきたい。

(3) モデル事業実施における現状と課題、及び今後考えられる課題

(資料2 「休日部活動地域移行モデル事業の概要」、「モデル事業実施から判明した課題」、「今後考えられる課題と解決・改善策」について事務局(生涯学習課長)が説明を行う。)

・休日部活動地域移行モデル事業の概要につきましては資料のとおりとなります。

・モデル事業に関しては取組開始してまだ日が浅いため、参加生徒や保護者の皆さまの意見を聞くことが出来ていないが、現段階で私どもが認識していることを課題として資料に項目立てしてお示ししております。

●委員からの意見・質問

質問などに関しては議題(4)の後にまとめてお伺いする。

(4) 部活動地域移行にむけた取組み(小学校・中学校)

(中学校の休日部活動地域移行にむけた取組みについて資料3-1に基づき、事務局(生涯学習課長)が説明を行う)

- ・取り組みについて説明するにあたり、別紙「参考資料」にて中学校部活動の活動状況として種目ごとの参加人数を記載しているの、まずはご認識いただきたい。
- ・文化系部活動に関しては吹奏楽部のみが現在も土日に活動を行っているため、運動系部活動に吹奏楽部を含めた種目で休日部活動地域移行を考えている。
- ・行政として進めるべき取り組みで、運営主体をどの様にしていくかという課題がある。まず、運営主体としての業務はどの様なことがあるかを説明いたしますと、指導者の確保やスケジュール管理、活動場所の調整、保護者対応、トラブル対応など多岐にわたっている。この役割を行政が担うのか、あるいは委託先事業者が担うのかといった部分で資料の想定1～3のパターンが考えられる。
- ・想定1で考えられる問題点は、指導者の代替わりや急な事故などで指導が出来なくなってしまった場合に継続性、永続性が保てるかどうかといった問題が想定される。
- ・想定2に関しては先行自治体の状況も見ながらといったことになるが、直近では長久手市がリーフラス（株）と委託契約を結びました。外部委託にて運営をしていくことに関しては、先行他自治体と情報交換をしながら想定される問題を洗い出し、出来るだけ支障が少なくなるようにしていきたいと考えております。
- ・想定3に関しましては、例えば柔道やソフトテニスのようにモデル事業において、上手くいった部活動に関しては直営で運営し、それ以外の部活動に関しては外部委託をするといったハイブリッド型を考えております。
- ・その他の検討事項や地域移行のスケジュールといったところは資料のとおりとなります。

(小学校部活動については資料3-2に基づき、事務局（学校教育課長）が説明を行う。)

- ・令和8年度に向けて、純粋に部活動と呼ばれるものは一旦終了して、どのように運動する機会や文化活動をする機会を確保していくのかという事が今後の課題になると考えている。
- ・課題に対する案として、2. 小学校部活動の今後（案）を考えているが、小学校の部活動についてどういった目的でどういった形で取組んでいくべきかといったご意見を、一度ゼロベースでこの後 PTA 代表の方々に考えや思いをお伺いしたいと思います。
- ・スケジュールに関しては資料のとおり考えているが、方向性についてを令和6年2月ごろに保護者の皆さまにお示ししている。

●委員からの意見・質問（中学校と小学校を分けてお伺い）

【中学校】

副委員長) 不透明な部分があることは認識しているが、出来るだけ早く方向性を示していただかないと今後の動きが難しい。

事務局) 指導員の確保が一番の課題であると考えており、これ以上取り組んでも人材が確保できないとなった時に外部委託へ舵を切っていく必要があると考えている。時期については現段階で明言できないが、速やかに取り組んでいきます。

委員) 小学校と中学校ではスタンスが大きく異なっている。中学校は大会出場に向けて活動している子どもが多い。外部委託していくのは良いが、その際

に今までどおり大会に出ることが出来るのかどうか不安がある。

委員) 中体連の大会は教員が運営に入っているが、招待試合などは地域の方が運営に入っていたりする。今後も臨機応変に対応できる体制が必要。しかし、保護者の視点から言えば、日ごろからコミュニケーションが取れている教員が介入していた方が安心。

委員) 地域移行のスケジュールプランで、もっと細かな日程案や具体的な方向性を示してほしい。保護者としては外部委託にせよ、教員が指導にあたるにせよ、今までどおり週末は学校に行けば部活動に参加できるという安心感を運営側が示していくことが大切である。

事務局) ご指摘どおりスケジュールに関しては具体的ではないです。中学校に関しては直営にて運営していくことを現状考えており動いている。潤沢に指導者の人材がいれば直営ですぐに行える部分もあるため、様々な方面に人材募集の依頼をかけている状況。そのため、今回は明確なスケジュールはお示しできないが、次回の委員会までには少し進捗していると考えられるのもう少し明確なものをお示しすることが出来ると考えております。

委員) 部活動をやりたい先生、また、やれない先生も存在し、更に教員の働き方改革の推進もある中、今後どうしていくかとなった時、栄中では原則土日の部活動は行わないと保護者にお示しした。ただ、あくまでも原則なので大会に関しての活動は行うとした。このように先生の意向も様々な中、今後の動きというものが難しく、もやもや感がある。

委員) 大会が無くなる種目や対応が決まっていない種目は、参加生徒のモチベーション維持についても困っている。

【小学校】

副委員長) 2年後に地域移行するという事で学校側もそれまでは踏ん張って取り組めることもあるが、明確になっていないので方向性を早く示してほしい。2年後になくなるのであれば、来年度から開催しないという選択もできるかもしれない。

事務局) 小学校の部活動の在り方についてどのような形で考えていくかによってくると思います。例えば小学校部活動についての資料(資料3-2)の2(1)の豊明スポーツクラブ参加による運動機会の確保や豊明文化系ジュニアクラブへの参加により文化活動に触れる機会の創出。(2)では外部に委託することで今までどおりの部活動を継続させ、今週はサッカー、来週はバスケットなど様々な体験ができる形にしていくことも可能になってくる。また、今の小学生の過ごし方を把握することが大切になってくると考え、どれくらいの人数の子どもが部活に入っているのか、部活動をやりたいという子はどれくらいいるのかなど。まずは、保護者の立場でみなさまのご意見をお聞かせください。

委員) 小学生で一生懸命その競技に取り組みたい子どもはクラブチームに入っていることが多い。確かに全体的に運動に触れる機会は少ないと感じる。しかし、お金を払ってまでクラブチームに参加するかといわれると難しいところがある。そういった点から部活動があると助かります。

委員) 子どもがバスケをやっている、部活もクラブチームも入っている。来年度以降大会等も無くなっていく中で、親の立場としては部活に参加するのではなくクラブチームだけで良いのではと思ってしまいが、部活には友達も参加しているというのもあり、やっぱり部活も参加した方が良いのではとも思ってしまふ。また、小学校を卒業して中学校に進学していくにあたって、中学校にその種目があるのか分からない状態で今の種目を続けていくべきか、続けたは良いが、途中でその部活が無くなってしまふこともあり得る。以上の点から、スピード感をもって方向性を決めていただきたい。

委員) 小学校には部活が3つしかない状態でその3つの部活に多くの子どもたちが参加していて、その中にはクラブチームに行くような上手な子もいる中で、練習試合も数分出られるかどうかという状況下で、果たして上達できるか楽しく参加できるのかが疑問に感じていました。正直、小学生の部活動に関してはあっても無くても実際は変わらないのではないかという想い。大会を目指すという目的だけではなく、親として、身体を動かす、スポーツを楽しむ機会をもってほしいという願いがあるので、部活動をやりたいならやっいていいという考え。部活を無くすのであれば、例えば授業時間内、学校で過ごす時間の中で、先生たちと身体を動かす時間、体力づくりの時間を作ってもらえると嬉しい。そのような時間をもつことが出来れば、部活の存続自体に重きを置いていない。むしろ学校生活を充実させることに心血を注いでいただきたいと思います。

委員長) 貴重なご意見ありがとうございました。

2. その他

事務局) 今回の検討委員会では「モデル事業の現状と課題」と「部活動における小中学校の取り組み」を中心に説明させていただきました。次回は事業を進めていくにあたって更なる課題が出てくるのが想定されますので、そのことについて皆さまからのご意見をいただきながら整理していきたいと考えております。次回の開催につきましては、より具体的な内容で進めていくことから、明確な日程はまだお示しできませんが、日程が決まり次第、文書にて参加依頼をさせていただきたいと思ひます。その際は、お忙しいところ大変恐縮ですが、ご参加のほどよろしくお願ひいたします。

以上

令和6年度第1回部活動地域移行検討委員会次第

日時 令和6年7月18日(木) 午後3時～
場所 豊明市役所 2階ホール

1 議題

(1) 令和6年度豊明市部活動地域移行検討委員会設置要綱(案)について 資料1

(2) これまでの検討委員会の振り返り

(3) モデル事業実施における現状と課題、及び今後考えられる課題 資料2

(4) 部活動地域移行にむけた取り組み(小学校・中学校) 資料3

2 その他

令和6年度 部活動地域移行検討委員会 委員名簿

委員長	早川 貴宏	豊明中学校
副委員長	伊藤 誠	中央小学校
委員	森 剛人	栄 中学校
	佐藤 英治	沓掛小学校
	藤井 謙一	沓掛小 PTA 代表
	日高 卓	栄小 PTA 代表
	田平 龍太郎	沓掛中 PTA 代表
	朝倉 千絵	令和5年度検討委員会委員 (二村台小学校)
	酒井 満	令和5年度検討委員会委員 (豊明小学校)
	今津 健治	令和5年度検討委員会委員 (豊明中学校)
	吉福 知倫	令和5年度検討委員会委員 (栄中学校)
	円城寺 賢治	豊明市スポーツ協会会長
	井戸 貴子	教育委員
事務局	相羽 敏明	生涯学習課
	青木 聖子	
	荒川 達也	
	秋永 亘正	学校教育課
	花井 悟之	
	山田 秋男	学校支援室
	奥平 剛	
本田 敏倫		

令和 6 年度豊明市部活動地域移行検討委員会設置要綱（案）

（目的）

第 1 条 この要綱は、豊明市立小中学校における部活動地域移行について検討するため、豊明市部活動地域移行検討委員会（以下「委員会」という。）の設置について必要な事項を定める。

（検討事項）

第 2 条 委員会は、文部科学省の示す「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に基づく、小中学校の部活動の地域移行に関する事項とする。

（組織）

第 3 条 委員会は、次に掲げる委員で構成する。

- （1） 中学校長代表
- （2） 小学校長代表
- （3） 中学校教頭代表
- （4） 小学校教頭代表
- （5） 各中学校 PTA 代表
- （6） 小学校 PTA 代表
- （7） 前各号に掲げる者のほか、教育長が必要と認める者

（任期）

第 4 条 委員の任期は令和 7 年 3 月 31 日までとする。

- 2 委員の交代の必要が生じたときは、委員を補充することができる。

（会議）

第 5 条 委員会は教育長が招集する。

- 2 委員長は中学校長代表を、副委員長は小学校長代表をもって充てる。
- 3 委員長は委員会の議長として会務を行い、副委員長は会長を補佐する。
- 4 委員長に事故あるとき又は欠けたときは、副委員長がその職務を代理する。

（庶務）

第6条 委員会の庶務は、教育委員会で処理する。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営について必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、決裁の日から施行する。

休日部活動地域移行モデル事業の概要

《モデル事業の実施》

従来各学校部活動の指導をしていただける地域の方々(外部指導員)がみえた。その方々のうち、休日の部活動を行っていききたいとの意向があった柔道とソフトテニスの2種目について、休日部活動の地域移行のモデル事業として行うこととなった。今後、モデル事業を実施していく中で定期的に指導者へのヒアリングを行い、課題を整理し、試行錯誤しながら改善していく。また指導者に限らず、生徒や保護者に対してアンケート等行うことで、よりよい体制の構築を目指していくものとする。

(モデル事業実施種目)

★柔道 (令和5年11月～開始)

- ・隔週土曜日、午前9時～正午、3中学校合同で豊明中にて実施
- ・参加生徒 38名、指導員 11名
(指導員は豊明柔道クラブに委託。指導員謝礼:1時間あたり1,600円)
(※活動一回あたり参加生徒平均25名、指導者平均5名)
- ・大会について…引率は地域クラブ指導者。運営に関しては学校(教員)が対応。

★ソフトテニス 各中学校にて実施

(栄中:令和6年5月～開始 豊明中・沓掛中:令和6年9月～実施予定)

- ・【栄中】 土曜日、または日曜日に拠点校にて実施。男女別のクラブ。
- ・参加生徒 39名(男子3名、女子36名)、指導員 6名
(指導員は豊明市ソフトテニス協会に委託。指導者謝礼:1回あたり1,500円)
(※活動一回あたり参加生徒平均20名、指導者平均3名)
(※男子は地域クラブのみの活動なので、平日の男子部は活動なし)
- ・大会について…大会に出場時、引率は地域クラブ指導者。大会運営等に関しては基本地域クラブ指導者に依頼。運営参加が難しい場合は教員が対応。

- ・【豊明中、沓掛中】 (令和6年9月～実施予定)

モデル事業実施から判明した課題

	課題	概要	解決・改善策
1	指導者について	指導者における大会等の運営は負担が大きい (他校では学校顧問大会運営を担っているが、指導員では難しい)	モデル期間中は学校関係者にて行うが、大会等実施の可否を含め主催者の見解を待つ必要がある
		顧問者会議が平日に行われる (地域クラブの指導者が別で仕事をしている場合、出席が難しい)	モデル期間中は学校関係者にて行うが、その後は検討が必要
2	参加生徒・保護者への配慮	指導者と保護者等の活動連絡が支障なく行えるか (個人情報の取扱いは？LINEでの連絡は問題ないのか)	ソフトテニス部で試験的にアスフィール(株)の「部活アプリ」を活用している
		活動への参加希望をしてもすぐに参加できない (保険加入手続きに時間を要し、入部から活動までタイムラグが生じる)	なるべく早めに手続きをするよう努めている
3	大会参加について	指導員における大会等の運営は負担が大きい (再掲)	中体連の大会については、モデル期間中は学校関係者にて行うが、大会等実施の可否を含め主催者の見解を待つ必要がある
		大会等登録は誰が行うのか、また登録費用は誰が負担するのか	中体連の大会については、モデル期間中は学校関係者にて行うが、大会等実施の可否を含め主催者の見解を待つ必要がある。その後検討する。
		地域クラブでの大会への参加名称、ユニフォームの手配はどうか	モデル期間中は、所属する学校からの出場とし、ユニフォームの手配も学校にて行っているが、今後は検討が必要
		出場する大会をどこまでとするか (種目によっては頻繁に大会を行っているが、派遣に係る経費との関係もあり線引きが必要)	統一の線引きをし、それ以外の任意の大会は指導員の判断とする

4	指導員活動時間・交通費	活動時間を「3時間程度」としているが、これが適当か (準備・片付けに時間がかかる場合がある)	謝金支払いの関係もあるが、モデル事業実施団体とも調整する必要がある
		大会の派遣に関する交通費など、どこまで支払うのか	統一の大会においては行政にて負担する方向で検討

※ 大会等(主に中体連主催の大会)について、主催者のみで運営・審判等業務を担っていただければよいが、現段階では不明である。

今後考えられる課題と解決・改善策

	課 題	概 要	解決・改善策(案)
1	指導者の確保等	指導員をどのように確保していくのか (継続して活動するために、どのような方法が良いか)	外部指導員や市内事業者、大学等への依頼をする方向で調整中
		指導員の質をどのように担保していくのか。また研修の内容をどうするか。	指導者の資質や採用基準の取り決めが必要。 研修内容は生徒への指導の仕方のほか、コンプライアンスやハラスメント等に関するものも盛り込むこと。
		種目ごとの指導者数は何人が適切か (現状、柔道は、(生徒):(指導者)を 6:1 程度としている)	原則、複数で指導にあたるべき。 技術指導員が確保できない場合、補助員等の配置も検討する必要。
		教員の兼職兼業についての整理が必要 (学校顧問でも部活動の指導をしたい先生がいる)	他市町のガイドライン等も参考に検討していく
		指導員に、種目の技術指導のほか、どこまでの業務を求めるか (現状、以下のとおりとしている) 参加生徒の技術指導及び大会への引率 活動中の参加生徒の状況把握や緊急時の救急車等の手配 天候やグラウンド等の状況による活動実施可否の判断 市から依頼のある研修への参加 参加生徒、保護者等への連絡 活動におけるトラブル対応	過度の負担とにならないか検証が必要
		現在、モデル事業として指導にあたっていただいている方が引き続き指導していただけるか不透明	過度の負担とにならないか検証が必要

2	参加費	参加生徒・保護者への参加費はどの程度とするか。 また、家計困窮世帯における支援は。	受益者負担が原則とするが、他市町を参考に検討
		参加費には何を含めるか (指導料のほか、保険料、アプリ利用料 なども含めるのか)	他市町を参考に検討
		集金の方法	保護者の過度な負担とならないような方法を検討
		参加費が滞納されないような対策	他市町を参考に検討
3	参加生徒・保護者への配慮	活動時に緊急の連絡や対応が必要になった場合の対応	土日でも連絡が可能な体制を検討
		支援が必要な生徒への対応	他部署と連携しながら検討
		地域クラブ化できない場合の対応はどのように行うのか	民間で受け皿となる団体等の紹介をすべきか
		複数校で実施する場合、参加生徒や保護者の負担	単独校での実施を目指す、指導員により合同となる可能性もあり
4	活動場所	活動場所が重なることはないか (グラウンドや体育館での活動が重複することがないように) (現状では柔道が、豊明中にて合同で実施している)	施設管理者(各中学校等)と十分調整する必要がある

※ 将来的には新種目の活動も検討すること

中学校休日部活動の地域クラブへの移行に向けた取り組み

今後、以下の項目について検討、実施する

1 運営主体の検討

運営について以下のパターンで進めていくことを想定

想定 1 直営実施

市教育委員会が主体となり、各団体、指導者に協力のもと実施することを想定、モデル事業の検証を経て実施。

①運営手法の調整

・モデル事業の検証等から、課題の検証・解決

②地域等の指導者確保を進める

【実施済】・スポーツ協会への人員確保への協力

【調整中】・市内事業者への人材確保の協力

・現在、学校部活動の指導者への休日活動への協力依頼

【未実施】・外部団体、事業者への特定種目での指導者派遣の依頼

・大学(大学生)への協力、派遣依頼

・県の人材バンク利用

想定 2 委託事業化による民間事業者による運営

人員確保が困難、永続性が保てない、直営による運営(コーディネート)等が困難なども想定され、事業委託化も予備的に情報収集、検討を進める

※ 予算確保について困難、制約が生じる場合がある前提

①先行他自治体の状況確認

②委託仕様の検討及び予算推計

想定 3 直営 + 委託事業化 よる運営

想定 1 の直営と、想定 2 の民間事業者への委託化のハイブリッド型

2 その他の検討事項等

(1) 教員への連携協力

- * 週末部活動への教員の協力
- ・教育委員会における兼職兼業の整理
- ・現状における意向調査

(2) 実施種目

- ① 3 中学区で現在行われている部活動について週末部活の集約化
週末は実施しない、1 会場での統合実施などを整理
- ② 新たな種目の検討

(3) 大会参加の考え方（主催者による整理が前提）

- 部活動の大会参加について、整理が必要
（参加主体、費用負担など）

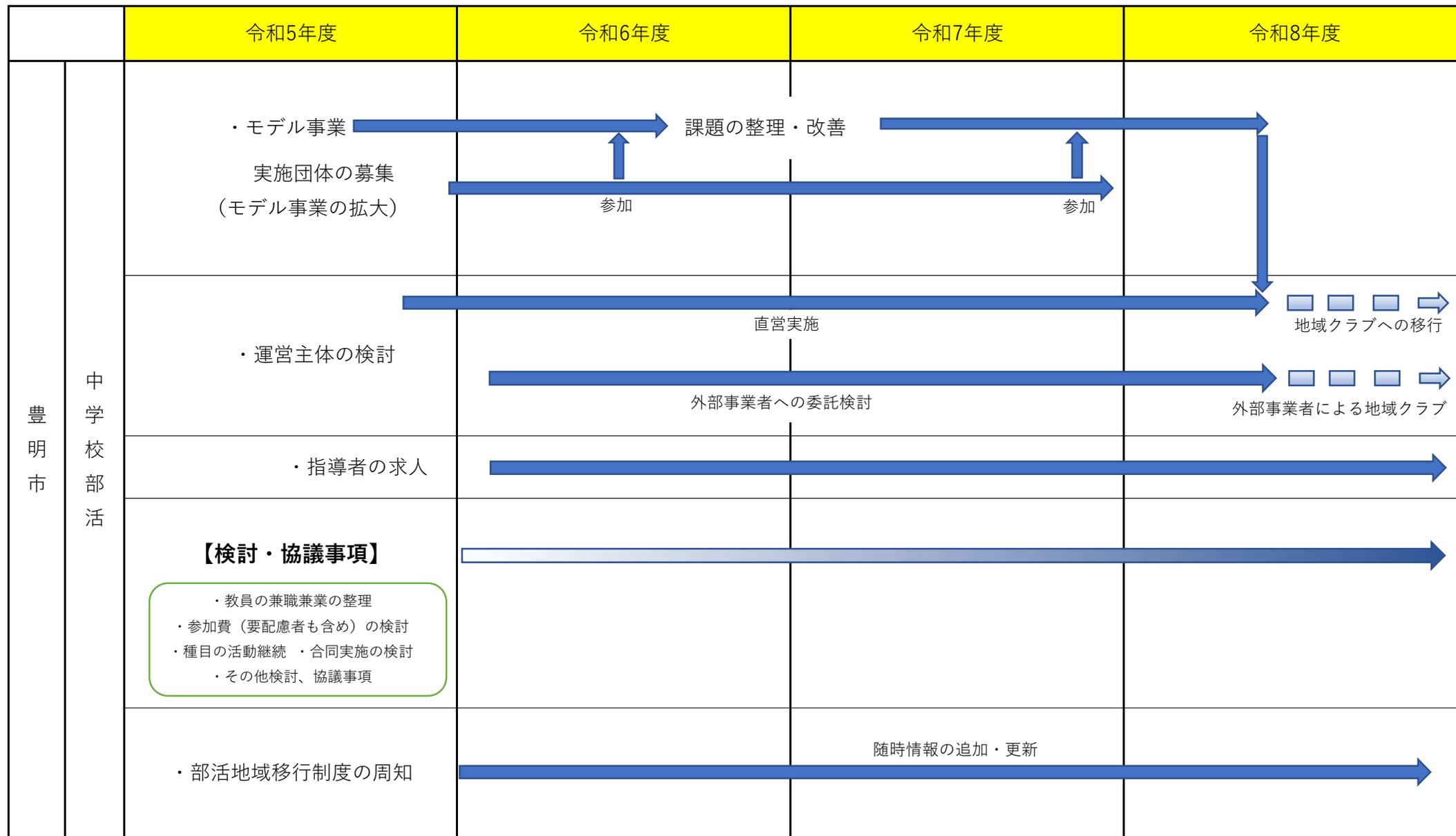
(4) 代替的なスポーツクラブの周知

- 現状の部活動の代替となる、地域の民間スポーツクラブの情報提供

(5) 参加生徒・保護者への配慮

- 参加費をどれくらいにするか（困窮世帯の参加費を含めて）
- 支援が必要な生徒への対応

中学校部活動地域移行の今後について



小学校部活動について

資料3-2

1 小学校部活動の現状について

■活動日は週3日、主に春夏は1時間程度、秋冬は30分程度実施

豊明小	サッカー、バスケット、金管バンド、カラーガード
栄小	サッカー、バスケット、金管バンド、カラーガード
中央小	サッカー、バスケット、金管バンド
沓掛小	サッカー、バスケット、金管バンド
大宮小	サッカー、バスケット、金管バンド、フラッグ部
三崎小	サッカー、バスケット、金管バンド
舘小	サッカー、バスケット、金管バンド
二村台小	サッカー、バスケット、金管バンド

2 小学校部活動の今後（案）

- (1) 豊明スポーツクラブや豊明文化系ジュニアクラブへの参加促進
- (2) 委託等による部活動の実施
- (3) その他

3 スケジュール（案）

実施内容	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度（本格移行）
・ 検討委員会		実施方法・課題等の検討・方針の決定		
・ 児童・保護者への周知	保護者あて文書送付		説明会の実施	
・ 大会への対応		従来通り実施		交流試合等の実施

豊明市 中学校部活動の活動状況

令和 6年 5月 現在

種目	豊明中学校				栄 中学校				沓掛中学校				備 考
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	
野球									4	13	7	24	
サッカー	15	10	16	41	14	7	14	35	15	6	8	29	
陸上	24	25	17	66	14	14	15	43	13	8	14	35	
剣道	6	7	8	21			3	3	9	8	10	27	
柔道	9	10	7	26	2	4	3	9					R5.11月より土日地域移行（豊明中）
テニス男	19	17	15	51	3			3	27	14	11	52	R6.9月より土日地域移行（豊明・沓掛） R6.5月より土日地域移行（栄）
テニス女	9	7	7	23	15	13	8	36	15	14	12	41	R6.9月より土日地域移行（豊明・沓掛） R6.5月より土日地域移行（栄）
卓球男	19	9	15	43	9	24	9	42	10	12	24	46	
卓球女	10	1	10	21	14	9	5	28	7	6	15	28	
バレー男					23	5	10	38					
バレー女	8	4	10	22	6	11	18	35	13	15	7	35	
バスケ男	9	4	5	18	11	14	9	34	12	3	7	22	
バスケ女					6	6	7	19	5	7	10	22	
水泳	17	14	9	40									R6より季節部として活動（豊明中）
トレーニング													
吹奏楽	10	10	9	29	13	14	8	35	14	15	9	38	
美術	24	23	11	58					15	15	15	45	
科学	12	29	21	62									
文化					20	14	19	53					
パソコン									12	5	5	22	
計	191	170	160	521	150	135	128	413	171	141	154	466	

※ 斜字は地域クラブの登録人数